

令和6年度第2回学校魅力強化委員会報告

開催日	令和6年10月2日（水） 於 白石高校普通科キャンパス会議室
開催時間	15：30～17：00
出席者数	委員7名 事務局5名
出席者氏名	委員：江口、内野、岡、田中、上原、門田、溝口 事務局：森、江口、塚本、谷口、野見山
会議次第	1 開会 2 会長挨拶 3 各部会報告（議事の後に行った） 4 議事 （1） 令和7年度「総合的な探究の時間」実施計画について （2） 高校魅力化評価システムアンケート結果について 5 閉会 委員会終了後、第2回各部会

議事録

2 会長挨拶

3年間、地域と繋がりがながらの教育活動で、学校は地域に関する認識や生徒に対する思いがだいぶ変わった。簡単なことではないし、すぐに数字に表れることでもないが、このような取組を続けていくことが大切。地域と学校の双方にとって良いことだと感じている。

本日の会でも皆様の意見も学校運営に生かされていくので忌憚のないご意見をお願いします。

4 議事

(1) 令和7年度「総合的な探究の時間」実施計画について

事務局：本校は「課題解決能力を育てる」ことがスクールポリシーにも入っている。授業やその他の課外活動も含めた各種活動、全ての場面でその力を育てていくが、「総探」ではどのようにして育てるかということを考え、次年度のプログラムを作成した。まだたたき台の状態である。（プログラムの説明）

校長：複数学科を併設したキャンパス制の学校である本校は、この「総探」ではできるだけ共通の学びを行いたい。特に1年次には普通科と商業科が一緒に学んでいくという場を設けていきたいと考えている。

2年次からは各学科の目標にそって内容も多少変わっていき、3年次では各自の進路に生かすようにまとめていくよう考えている。

このたたき台をベースに今後さらに検討していくのでご意見をいただきたい。

委員1：これまでの取り組みをもとに総探の3年間の計画を1ペーパーにして一貫性のある流れを作ったことが新しくて良い。評価したい。

委員2：1年次にディベートさせるのは難しいかもしれない。

委員3：生徒にはコミュニケーション能力を身に付けてほしい。ソーシャルスキルトレーニングを入れるのはすごくいいと思う。

委員4：1年次のオリエンテーションではどのようなことをされるのか。3年間を見通した流れも伝え、何のためにこれをしているのかを意識できるように伝えれば良いと思う。

事務局：今年度のオリエンテーションでは総探の時間のあり方に重きを置いて行った。来年度は3年間の流れや3年後のなりたい自分を意識させ、そのための1年間ということを強く伝えるようにします。

委員3：3年間で1つのことを探求していくのか。それとも興味関心が変わればその都度変えていいのか。

事務局：1つのことを掘り下げて探究するとい探究にはなるが、変更しても良いとしている。

委員5：探究する際のアドバイザーはどうされているのか。昨年度の発表で農業について探求されたグループがあったが、そのアドバイザーはどうされたのか。そのようなテーマには地域の方にアドバイザーとなってもらう方が良い。先生方の負担も減るし、将来生徒が地域に残った場合の繋がりもできる。

委員1：最近の若手農家さんなどは教育に関心がある。地域の力をかりて教育に繋げていく方法はいい。

委員5：この3年間を見通した計画では、ぜひ「ここではこのような力を付ける」等と小ステップを詰めていってほしい。中間や最終発表等では論理的な表現の訓練の強化に繋げてほしい。

委員6：小中学校の先生方から「白石高校に通うメリットは何か」とよく聞かれる。この「総探」を特化して、「これを武器に大学や就職に繋げれる」と言えるようにしてほしい。

委員1：今もこの総探ではいろいろ活動されているが、外への発信が足りない。校内の取り組みに終わって

いる。例えば企画甲子園等に出してはどうか。入賞歴などは外部への発信もしやすいので、何らかの賞を取りに行くようなところに出して受賞を狙うなどの取り組みを、3年間のどこかに入れてほしい。

今出た意見も参考に、これからこのプログラムをまたしっかり練っていったほしい。そして、出来たらこれまでの取組とこれらの教育プログラムを持って、県外募集も思い切ってやってほしい。県外募集してもすぐには来ないだろうし、通い方や住む場所などの問題が出てくるであろうが、それは一旦置いておいて、まずやってみることで何らかのことがフィードバックされるはず。それで再度本校を見直すこともできるので、ぜひやってもらいたい。

(2) 高校魅力化評価システムアンケート結果について

事務局：資料説明

委員 6：生徒たちは我々が思っている以上にいろんな取組から多くを学んでいると感じる。このように数値化したものは職員にも生徒にも知らせてほしい。探究活動の取組も生徒の成長のきっかけになる。きっかけ作りをしてやらないといけない。

委員 4：学習活動や学習環境が増えていることを生徒も感じていることが数値に表れているが、「今後も地域に住みたい」「地域に貢献したい」等の意識に繋がっていない。どうすれば繋がるのが次の課題。

委員 5：今の子供たちに、地域に住み続けたいとか、地域で就職したいとか思わせるためには、地域で輝いている大人や地域でできる仕事を見せる等、指標となるものを示してあげる必要があるかもしれない。

校長：地域を土台とした学習環境は、地域の皆様のご協力のおかげで充実した環境が整えられた。今後、探究活動を通したその成果は個々の生徒で差が出てくるかもしれない。しかし、やり続けてきたからこそ変わってきていることには間違いない。自己認識等の数値に良い影響が出てくるためにはもう少し時間が必要。せっかくここまで辿り着いてきたので、今後どのように繋げていくかが重要となる。

委員 1：自己認識やウェルビーイングが低い。自分が認められた経験等で自己肯定感を上げる必要がある。だからこそ賞が取れるような何かにチャレンジさせたり外部でPRさせてみたりする経験が必要ではないか。外の資源をうまく活用して。簡単にはいかないことではあるが。

委員 6：これまでの教育は生徒が受け身であった。これからはまず考えさせるべき。考えるとセンスが磨かれる。

委員 1：これらの数字を見て、何かにチャレンジする素地はできていると感じる。生徒にも学校にも、何かにチャレンジすることが求められていいフェーズではないか。失敗していい。そのチャレンジが求められていると思う。

校長：3年間でいろんな取組ができるようになり、校舎制としてもいろんなことがスムーズに行えるようになってきた。確かに次に行ける情勢になってきたと思っている。

委員 1：自分は、県外のことを意識する場や表現の場があったからこそ、地域のことを一生懸命考えることに繋がった。「社会性に関わる自己認識」あたりは、外部の人との繋がりがあった上で、そのような経験の上で伸びていく能力であると思う。そういう取組もまた今後考えていただければと思う。

3 各部会報告（議事の進行上3と4を入れ替えて最後に）

(1) 学校評価部会

閉会後に部会を開催。学校評価中間評価について意見

(2) 地域連携部会

閉会後に部会を開催。

(3) 小中高連携部会

6月及び9月に杵島郡小中学校校長会へ参加。

- ・本校の現状と課題
- ・本校の取組のPR
- ・小中高連携の取組を紹介。今後の取組拡大を依頼。
- ・本校生徒による高校説明会の開催依頼。

※閉会後、各部会開催

事後 措置	朝礼時報告	○	職員会議にて報告	校内 LAN にて広報	
	その他（ 学校 HP に掲載 ）				